

広域的地域活性化基盤整備計画【事後評価】

にっこうこくりつこうえんちいき
日光国立公園地域

とちぎけん
栃木県

にっこうし なすしおぼらし なすまち
関係市町村(日光市、那須塩原市、那須町)

平成27年3月

目次

○ 広域的地域活性化基盤整備計画の目標および計画期間	1
○ 拠点施設(日光・藤原・足尾・栗山・塩原・那須)	2
○ 広域的地域活性化基盤整備計画の整備方針と基本的な方針等との整合性	8
○ 交付対象事業等一覧	9
○ 拠点施設・重点地区	11
○ 整備方針概要図	12
○ 事後評価	13

広域的地域活性化基盤整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	栃木県	計画の名称	日光国立公園地域
計画期間	平成20年度～平成24年度	交付期間	平成20年度～平成24年度

広域的特定活動
 ・世界遺産日光の社寺および、那須御用邸に代表される本地域において、観光誘致に向けた情報提供の取組や観光交流を支える基盤づくりにより広域的な交流を促進する。

目標
 ・国際観光地として内外から高い集客力をほこる「日光」と周辺地域への入込み客数を増加させるため、安全・安心・快適に楽しめる観光地となるよう、各拠点間や観光ネットワークの充実を図る。

目標設定の根拠

経緯及び現況

観光立県を目指す本県において観光の中核をなす日光及びその周辺地域にあつては、豊かな自然環境に恵まれているほか、温泉・宿泊施設・歴史・文化の旧跡等の多様な観光資源を有しており、さらに首都圏内と約150kmと好立地にある地域である。しかし、平成11年の世界遺産登録をピークに入込み客数が毎年減少を続け本地域の活性化に大きな影を落としている。その原因の一つとして、地域内での著しい渋滞や地域内拠点間の連携不足が考えられている。

課題

本地域のもつポテンシャルを最大限に活かし観光地日光の活性化を図るためには、本地域へのアクセス性を向上させるための道路整備が必要である。また、安全・安心・快適な道路走行空間形成に資するための道路災害防除や既存施設の適切な維持管理、更には適切な道路情報の提供や景観形成等のインフラ整備が課題になっている。

将来ビジョン(中長期)

山岳地域に位置する本地域へ観光客を安全・快適・確実にアクセスさせ、かつ、地域内拠点の連携を確保するため、各種補助事業や交付金による道路改築・道路災害防除事業を進めるとともに、本交付金によりトンネルの安全性や信頼性を高め、拠点地内の路面補修を行うことにより快適な観光アクセスを担保する。それにより、本地域の観光ポテンシャルを最大限に活かし、また、各拠点を有機的に連携し、本地域の魅力を高め地域の活性化を図る。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
観光入込み客数	千人	日光市・那須塩原市・那須町の合計観光入込み客数	観光の活性化を目指す指標として入込客数を設定	22,897	H18	24,042	H25
トンネル快適走行率	%	点検・清掃・工事により片側通行規制等されない割合	安全・安心・快適な道路を指す指標として設定	91.8	H18	95.1	H25

拠点施設

施設名	世界遺産日光地区	所在地	日光市山内ほか
設置主体	公共・民間・団体	管理・運営主体	公共・民間・団体
設置(予定)年月		拠点施設の区分	第二条第2項二
広域的特定活動の区分	第二条第1項口	拠点施設の整備の有無	有 ・ (無)
拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等 <概要及び整備計画> 日光地区は、世界遺産日光の社寺や避暑地中宮祠など国際的観光拠点を抱え、豊かな自然、歴史、文化の旧跡、温泉宿泊施設等多様な観光資源があり、年間約850万人の観光入込客数、約140万人の宿泊客数がある。 <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性> 本地区の観光拠点周辺では、大型車・普通車による交通渋滞が激しい状況にある。また、各拠点へのアクセス確保のためには、国庫補助事業などによる道路改築事業と併せ主要幹線のトンネルを健全に機能させることが必須である。そこで、トンネル設備の改築を含めたアクセス道路の整備及び保全事業を実施し、拠点間の交流促進を図る。 <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係> 国際観光地として、内外から高い集客力を誇る日光とその周辺地域の更なる活性化を図るため、観光交流を支える基盤づくりを進める。			
拠点施設で行われる広域的特定活動の内容 <現況> 日光地区は、世界遺産日光の社寺や避暑地中宮祠など国際的観光拠点を抱え、豊かな自然、歴史、文化の旧跡、温泉宿泊施設等多様な資源を活用した、観光産業を中心とした活動が行われている。 <将来> 国際観光地「日光」の活性化を図るため、旅行事業者、宿泊事業者、地域住民と連携し国際競争力のある世界遺産観光地づくりを目指す。			
広域的特定活動との関係 <拠点施設整備の蓋然性> 整備を伴わない既存施設 <拠点施設に設定した理由> 日光及びその周辺地域は、豊かな自然環境に恵まれ、温泉、宿泊施設、歴史、文化の旧跡等の多様な観光資源を有しており、首都圏内から約150kmと好立地にある地域である。 近年首都圏中心からのアクセスとしてJR、東武鉄道相互乗り入れを実現し来訪促進など、国際観光地として期待が高い。			
重点地区(設定する場合に記述)			

拠点施設

施設名	藤原地区	所在地	日光市鬼怒川温泉ほか
設置主体	公共・民間・団体	管理・運営主体	公共・民間・団体
設置(予定)年月		拠点施設の区分	第二条第2項二
広域的特定活動の区分	第二条第1項口	拠点施設の整備の有無	有 ・ (無)
拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等 <概要及び整備計画> 藤原地区は、関東の奥座敷と呼ばれる鬼怒川、川治の温泉観光拠点を抱え、豊かな自然、歴史、文化の旧跡、温泉宿泊施設等多様な観光資源があり、年間約200万人の観光入込客数、約200万人の宿泊客数がある。 <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性> 本地区では、大型車による交通渋滞が激しい状況にある。また、各拠点へのアクセス確保のためには、国庫補助事業などによる道路改築事業と併せ主要幹線のトンネルを健全に機能させることが必須である。そこで、トンネル設備の改築を含めたアクセス道路の整備及び保全事業を実施し、拠点間の交流促進を図る。 <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係> 国際観光地として、内外から高い集客力を誇る日光と連携を強化することにより更なる活性化を図るため、観光交流を支える基盤づくりを進める。			
拠点施設で行われる広域的特定活動の内容 <現況> 藤原地区は、関東の奥座敷と呼ばれる鬼怒川、川治の温泉観光拠点を抱え、豊かな自然、歴史、文化の旧跡、温泉宿泊施設等多様な観光資源を活用した、観光産業を中心とした活動が行われている。 <将来> 本地区の活性化を図るため、旅行事業者、宿泊事業者、地域住民と連携し国際競争力のある温泉観光地づくりを目指す。			
広域的特定活動との関係 <拠点施設整備の蓋然性> 整備を伴わない既存施設 <拠点施設に設定した理由> 本地区は、豊かな自然環境に恵まれ、温泉、宿泊施設、歴史、文化の旧跡等の多様な観光資源を有しており、首都圏内から約150kmと好立地にある地域である。 近年首都圏中心からのアクセスとしてJR、東武鉄道相互乗り入れを実現し来訪促進など、国際観光地として期待が高い。			
重点地区(設定する場合に記述)			

拠点施設

施設名	足尾地区	所在地	日光市足尾ほか
設置主体	公共・民間・団体	管理・運営主体	公共・民間・団体
設置(予定)年月		拠点施設の区分	第二条第2項二
広域的特定活動の区分	第二条第1項口	拠点施設の整備の有無	有 ・ (無)
拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等 <概要及び整備計画> 足尾地区は、足尾銅山という稀有な観光拠点を抱え、豊かな自然、歴史、温泉宿泊施設等多様な観光資源があり、年間約30万人の観光入込客数、約2万人の宿泊客数がある。 <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性> 本地区では、車での来訪が多いがアクセス道路が一本しかなくリダンダンシーが確保されていない。そのため、各拠点へのアクセスを確保するためには、国庫補助事業などによる道路改築事業と併せ主要幹線のトンネルを健全に機能させることが必須である。そこで、トンネル設備の改築を含めたアクセス道路の整備及び保全事業を実施し、拠点間の交流促進を図る。 <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係> 国際観光地として、内外から高い集客力を誇る日光と連携を強化することにより更なる活性化を図ることを目的に、観光交流を支える基盤づくりを進める。			
拠点施設で行われる広域的特定活動の内容 <現況> 足尾地区は、足尾銅山という稀有な観光拠点を抱え、豊かな自然、歴史、温泉宿泊施設等多様な観光資源を活用した、観光産業を中心とした活動が行われている。 <将来> 本地区の活性化を図るため、旅行事業者、宿泊事業者、地域住民と連携し国際競争力のある環境遺産観光地づくりを目指す。			
広域的特定活動との関係 <拠点施設整備の蓋然性> 整備を伴わない既存施設 <拠点施設に設定した理由> 本地区は、豊かな自然環境に恵まれ、温泉、宿泊施設、歴史、文化の旧跡等の多様な観光資源を有しており、首都圏内から約150kmと好立地にある地域であり、世界遺産登録を目指している。			
重点地区(設定する場合に記述)			

拠点施設

施設名	栗山地区	所在地	日光市栗山ほか
設置主体	公共・民間・団体	管理・運営主体	公共・民間・団体
設置(予定)年月		拠点施設の区分	第二条第2項二
広域的特定活動の区分	第二条第1項ロ	拠点施設の整備の有無	有 ・ 無
拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等 <概要及び整備計画> 栗山地区は平家落人に関する風習や言い伝えが多くのこる秘境で、四季折々に変化する豊かな自然、歴史、温泉宿泊施設等多様な観光資源があり、年間約60万人の観光入込客数、約40万人の宿泊客数がある。 <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性> 本地区では車で訪が多いが山に囲まれリダンダンシーが弱い状況である。また、各拠点へのアクセスを確保するためには、国庫補助事業などによる道路改築事業と併せ主要幹線のトンネルを健全に機能させることが必須である。そこで、トンネル設備の改築を含めたアクセス道路の整備及び保全事業を実施し、拠点間の交流促進を図る。 <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係> 国際観光地として、内外から高い集客力を誇る日光と連携を強化することにより更なる活性化を図ることを目的に、観光交流を支える基盤づくりを進める。			
拠点施設で行われる広域的特定活動の内容 <現況> 栗山地区は平家落人に関する風習や言い伝えが多くのこる秘境で、四季折々に変化する豊かな自然、歴史、温泉宿泊施設等多様な観光資源を活用した、観光産業を中心とした活動が行われている。 <将来> 本地区の活性化を図るため、旅行事業者、宿泊事業者、地域住民と連携し国際競争力のある秘湯観光地づくりを目指す。			
広域的特定活動との関係 <拠点施設整備の蓋然性> 整備を伴わない既存施設 <拠点施設に設定した理由> 本地区は、豊かな自然環境に恵まれ、温泉、宿泊施設、歴史、文化の旧跡等の多様な観光資源を有しており、首都圏内から約150kmと好立地にある地域であるがアクセスが限定される秘境である。			
重点地区(設定する場合に記述)			

拠点施設

施設名	塩原地区	所在地	那須塩原市上塩原ほか
設置主体	公共・民間・団体	管理・運営主体	公共・民間・団体
設置(予定)年月		拠点施設の区分	第二条第2項二
広域的特定活動の区分	第二条第1項口	拠点施設の整備の有無	有 ・ (無)
拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等 <概要及び整備計画> 塩原地区は、国際観光都市日光と御用邸に代表される那須の間に位置し、豊かな自然、歴史、温泉宿泊施設等多様な観光資源があり、年間約660万人の観光入込客数、約120万人の宿泊客数がある。 <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性> 本地区では大型車・普通車による交通渋滞が激しい状況にある。また、各拠点へのアクセスを確保するためには、国庫補助事業などによる道路改築事業と併せ主要幹線のトンネルを健全に機能させることが必須である。そこで、トンネル設備の改築を含めたアクセス道路の整備及び保全事業を実施し、拠点間の交流促進を図る。 <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係> 国際観光地として、内外から高い集客力を誇る日光と連携を強化することにより更なる活性化を図ることを目的に、観光交流を支える基盤づくりを進める。			
拠点施設で行われる広域的特定活動の内容 <現況> 塩原地区は、国際観光都市日光と御用邸に代表される那須の間に位置し、豊かな自然、歴史、温泉宿泊施設等多様な観光資源を活用した、観光産業を中心とした活動が行われている。 <将来> 本地区の活性化を図るため、旅行事業者、宿泊事業者、地域住民と連携し国際競争力のある温泉観光地づくりを目指す。			
広域的特定活動との関係 <拠点施設整備の蓋然性> 整備を伴わない既存施設 <拠点施設に設定した理由> 本地区は、豊かな自然環境に恵まれ、温泉、宿泊施設、歴史、文化の旧跡等の多様な観光資源を有しており、首都圏内から約150kmと好立地にある地域である。 近年首都圏中心からのアクセスとしてスマートICや活性化ICを事業化するなど、国際観光地として期待が高い。			
重点地区(設定する場合に記述)			

拠点施設

施設名	那須地区	所在地	那須町 那須高原 ほか
設置主体	公共・民間・団体	管理・運営主体	公共・民間・団体
設置(予定)年月		拠点施設の区分	第二条第2項二
広域的特定活動の区分	第二条第1項口	拠点施設の整備の有無	有 ・ (無)
拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等 <概要及び整備計画> 那須地区は、御用邸に代表される那須高原を抱え、豊かな自然、歴史、温泉宿泊施設等多様な観光資源があり、年間約490万人の観光入込客数、約180万人の宿泊客数がある。 <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性> 本地区では大型車・普通車による交通渋滞が激しい状況にある。また、各拠点へのアクセスを確保するためには、国庫補助事業などによる道路改築事業と併せ主要幹線のトンネルを健全に機能させることが必須である。そこで、トンネル設備の改築を含めたアクセス道路の整備及び保全事業を実施し、拠点間の交流促進を図る。 <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係> 国際観光地として、内外から高い集客力を誇る日光と連携を強化することにより更なる活性化を図ることを目的に、観光交流を支える基盤づくりを進める。			
拠点施設で行われる広域的特定活動の内容 <現況> 塩原地区は、御用邸に代表される那須を抱え、豊かな自然、歴史、温泉宿泊施設等多様な観光資源を活用した、観光産業を中心とした活動が行われている。 <将来> 本地区の活性化を図るため、旅行事業者、宿泊事業者、地域住民と連携し国際競争力のある温泉高原観光地づくりを目指す。			
広域的特定活動との関係 <拠点施設整備の蓋然性> 整備を伴わない既存施設 <拠点施設に設定した理由> 本地区は、豊かな自然環境に恵まれ、温泉、宿泊施設、歴史、文化の旧跡等の多様な観光資源を有しており、首都圏内から約150kmと好立地にある地域である。 近年首都圏中心からのアクセスとしてスマートICや活性化ICを事業化するなど、国際観光地として期待が高い。			
重点地区(設定する場合に記述)			

広域的地域活性化基盤整備計画の整備方針と基本的な方針等との整合性

計画の整備方針		方針に合致する主要な事業	
<p>・拠点施設へのアクセス道路および拠点間の連絡道路の安全・安心で快適な走行空間を確保することにより、観光活性化を図る。</p> <p>・具体的には各種補助事業や交付金による道路改築・道路災害防除事業を進めるとともに、本交付金によりトンネルの安全性や信頼性を高め、拠点地内の路面補修を行うことにより安全・安心・快適な観光アクセスを担保する。</p> <p>・それにより、本地域の観光ポテンシャルを最大限に活かし、また、提案事業により各拠点を有機的に連携し、本地域の魅力を高め地域の活性化を図る。</p>		<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネル設備改築(国道120号、122号、400号、県道川俣温泉川治線) ・舗装修繕(国道120号、121号、122号、400号) ・道路情報板 改築(日光市、那須塩原市、那須町) ・道路標識 更新(日光市、那須塩原市、那須町) ・道路照明 更新(日光市、那須塩原市、那須町) <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路事業 <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで磨く日光ブランド再構築支援事業 ・道の駅情報提供装置の改築(日光市、那須塩原市、那須町) 	
基本的な方針等との整合性(※1)			
区分	整合性等の有無	左記の理由等	
① 広域的地域活性化のための基盤整備に関する基本的な方針との適合の有無	⓪ ・ 無	観光拠点に広域から来訪者を増加させ、地域活性化を図るものである。	
② 国土形成計画、社会資本整備重点計画、環境基本計画との調和の有無	⓪ ・ 無	国土形成計画第2部第3章第2節の観光振興による地域の活性化 首都圏広域地方計画第1部第2章第2節方針5(1)多様な主体の交流・連携がより活発な圏域の実現	
③ 北海道総合開発計画、沖縄振興計画との調和の有無 (北海道及び沖縄のみ回答)	有 ・ 無		
④ その他の計画等との整合性の有無	⓪ ・ 無	栃木県総合計画「とちぎ元気プラン」、栃木県観光振興計画に整合	
⑤ 関係市町村への意見聴取の有無(※2)	⓪ ・ 無	面談による説明、回答(復命書方式)。日光市、那須塩原市、那須町	
⑥ 他の都道府県への意見聴取の有無(※2) (他の都道府県との境界にかかる計画の場合に回答)	⓪ ・ 無	群馬県との金精トンネル管理協定、事業協定の締結	
広域地方計画協議会での取扱い(※3)	有 ・ 無		
その他			

※1 ①から⑥については、整合性等の有無を判断した資料を添付すること。

※2 意見聴取「有」の場合は、「左記の理由等」欄に、意見聴取の方法及び関係市町村名又は他の都道府県名を記載すること。「無」の場合は、その理由を記載する

※3 広域地方計画協議会で本計画が検討された場合は「有」とし、その内容を記載すること。

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費 (a)	1,829	交付限度額(b)	823	国費率 (b/a)	0.45
-------------	-------	----------	-----	-----------	------

【基幹事業①】社会資本整備総合交付金対象事業

(単位:百万円)

事業	細項目	事業箇所名	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費			交付対象事業費	環境影響評価	
				開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分	対象有無		手続終了年月	
道路	トンネル設備改築	国道122号 日光市 日足トンネル		20	22	20	22	422	422	422	0	422	無	—
道路	トンネル設備改築	国道400号 那須塩原市 尾頭トンネル		20	22	20	22	38	38	38	0	38	無	—
道路	トンネル設備改築	国道120号 日光市 金精トンネル		20	22	20	22	0	0	0	0	0	無	—
道路	トンネル設備改築	国道120号 日光市 明智トンネル		20	22	20	22	24	24	24	0	24	無	—
道路	トンネル設備改築	主)川俣温泉川治線 日光市 葛老トンネル		20	22	20	22	10	10	10	0	10	無	—
道路	トンネル設備改築	主)川俣温泉川治線 日光市 田茂沢トンネル		20	22	20	22	19	19	19	0	19	無	—
道路	舗装修繕	国道120号 日光市 いろは坂		20	22	20	22	90	90	90	0	90	無	—
道路	舗装修繕	国道121号 日光市 大桑		20	22	20	22	90	90	90	0	90	無	—
道路	舗装修繕	国道122号 日光市 神子内		20	22	20	22	76	76	76	0	76	無	—
道路	舗装修繕	国道400号 那須塩原市 塩原		20	22	20	22	90	90	90	0	90	無	—
道路	道路情報板 改築	日光市、那須塩原市、那須町		20	22	20	22	60	60	60	0	60	無	—
道路	道路標識 更新	日光市、那須塩原市、那須町		20	22	20	22	156	156	156	0	156	無	—
道路	道路照明 更新	日光市、那須塩原市、那須町		20	22	20	22	66.8	66.8	66.8	0	66.8	無	—
基幹事業① 計								1,140.8	1,140.8	1,140.8	0.0	1,140.8		

【基幹事業②】地域自主戦略交付金対象事業

(単位:百万円)

事業	細項目	事業箇所名	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費			交付対象事業費	環境影響評価	
				開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分	対象有無		手続終了年月	
道路	トンネル設備改築	国道122号 日光市 日足トンネル		23	24	23	24	218	0	0	0	0	無	—
道路	トンネル設備改築	国道400号 那須塩原市 尾頭トンネル		23	24	23	23	32	162	162	0	162	無	—
道路	トンネル設備改築	国道120号 日光市 金精トンネル		23	24	23	24	120	0	0	0	0	無	—
道路	トンネル設備改築	国道120号 日光市 明智トンネル		23	24	23	24	76	0	0	0	0	無	—
道路	トンネル設備改築	主)川俣温泉川治線 日光市 葛老トンネル		23	24	23	24	11	0	0	0	0	無	—
道路	トンネル設備改築	主)川俣温泉川治線 日光市 田茂沢トンネル		23	24	23	24	131	126	126	0	126	無	—
道路	舗装修繕	国道120号 日光市 いろは坂		23	24	23	24	60	26	26	0	26	無	—
道路	舗装修繕	国道121号 日光市 大桑		23	24	23	24	60	20	20	0	20	無	—
道路	舗装修繕	国道122号 日光市 神子内		23	24	23	24	74	25	25	0	25	無	—
道路	舗装修繕	国道400号 那須塩原市 塩原		23	24	23	24	60	98	98	0	98	無	—
道路	道路情報板 改築	日光市、那須塩原市、那須町		23	24	23	24	40	66	66	0	66	無	—
道路	道路標識 更新	日光市、那須塩原市、那須町		23	24	23	24	184	70	70	0	70	無	—
道路	道路照明 更新	日光市、那須塩原市、那須町		23	24	23	24	13.2	11.5	11.5	0	11.5	無	—
基幹事業② 計								1,079.3	605.3	605.3	0.0	605.3		

基幹事業(A) = 基幹事業① + 基幹事業②

1,746

【提案事業①】社会資本整備総合交付金対象事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体	交付期間内		交付対象事業費	事業収益の有無	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費	うち官負担分			うち民負担分
事業活用調査															
地域自立・活性化活動推進事業	みんなで磨く日光ブランド再構築支援事業	日本風景街道	県	直	70	20	22	20	22	19.3	19.3	19.3	0.0	19.3	無
地域自立・活性化基盤整備支援事業	道の駅情報提供装置の改築	日光市、那須塩原	県	直	50	20	22	20	22	29.3	29.3	29.3	0.0	29.3	無
合計										48.6	48.6	48.6	0.0	48.6	

【提案事業②】地域自主戦略交付金(仮称)対象事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体	交付期間内		交付対象事業費	事業収益の有無	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費	うち官負担分			うち民負担分
事業活用調査															
地域自立・活性化活動推進事業	みんなで磨く日光ブランド再構築支援事業	日本風景街道	県	直	70	23	24	23	24	50.7	17.1	17.1	0.0	17.1	無
地域自立・活性化基盤整備支援事業	道の駅情報提供装置の改築	日光市、那須塩原	県	直	50	23	24	23	24	20.7	17.6	17.6	0.0	17.6	無
合計										71.4	34.7	34.7	0.0	34.7	

提案事業(B) = 提案事業① + 提案事業②

83.3

交付対象事業費(基幹事業(A) + 提案事業(B))

1,829

うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計

1,189

うち 地域自主戦略交付金(仮称)対象事業 計

640

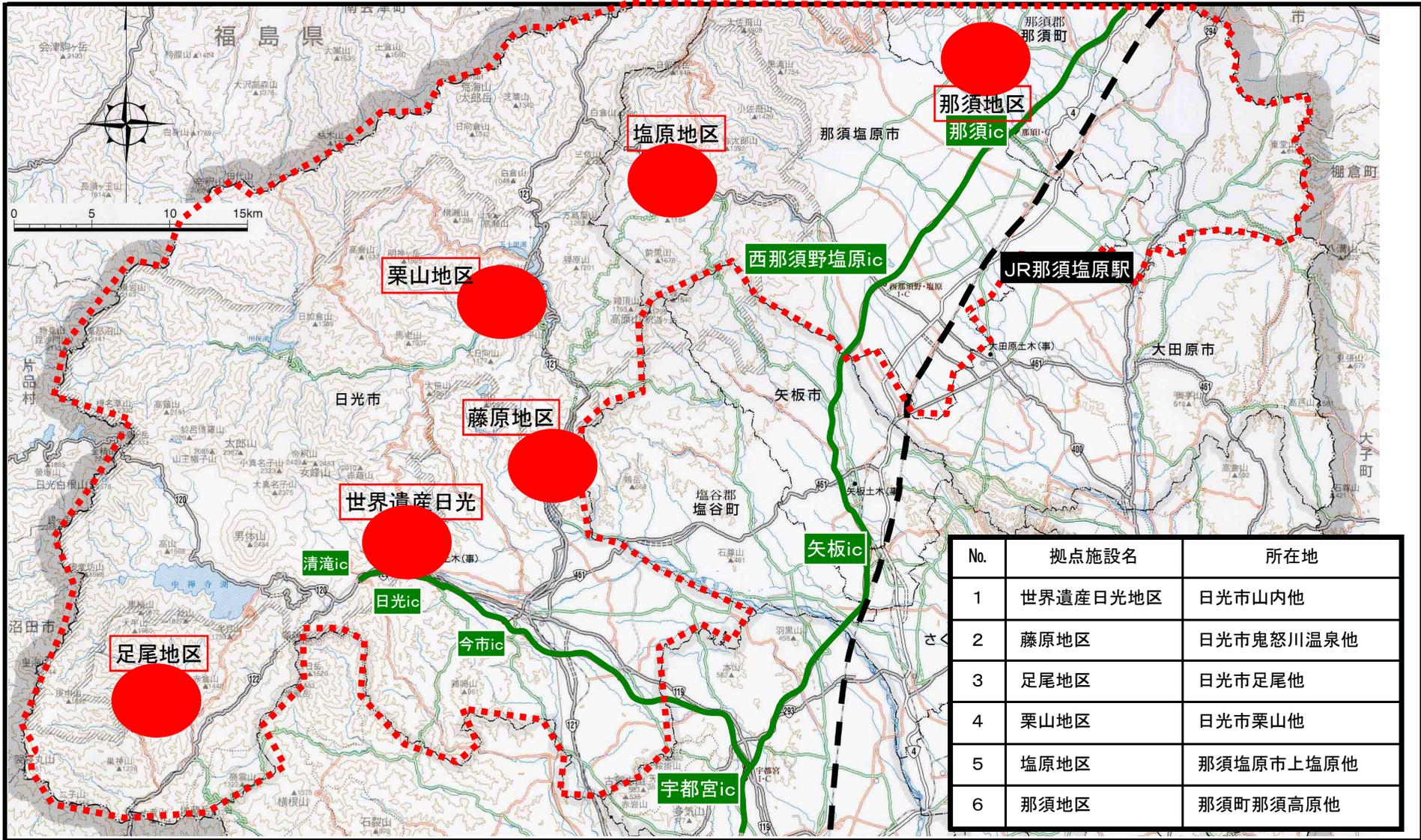
(参考)関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
合計											0

拠点施設

※複数の拠点施設が離れている場合は、適宜追加する。

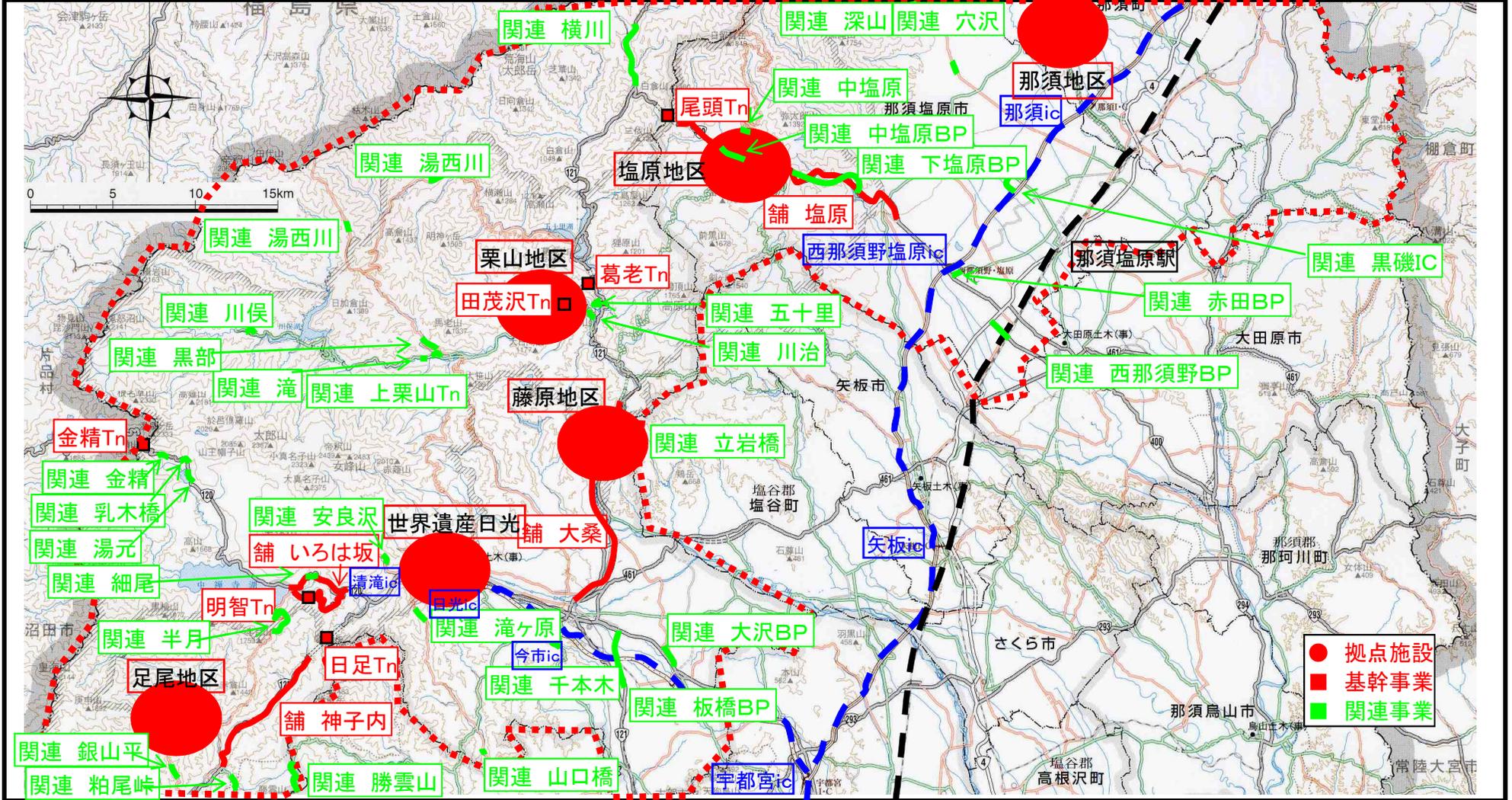
日光国立公園地域(栃木県)	面積	2,145km ²	所在地	栃木県 日光市、那須塩原市、那須町	重点地区	有(無)
---------------	----	----------------------	-----	-------------------	------	------



No.	拠点施設名	所在地
1	世界遺産日光地区	日光市山内他
2	藤原地区	日光市鬼怒川温泉他
3	足尾地区	日光市足尾他
4	栗山地区	日光市栗山他
5	塩原地区	那須塩原市上塩原他
6	那須地区	那須町那須高原他

日光国立公園地域(栃木県) 整備方針概要図

目標	安全・安心・快適に楽しめる観光地として入込み客数を増加させるため、各拠点間や観光ネットワークの充実を図る。	代表的な指標	区域内入込み客数(千人)	22,897(18年度)	→	24,042(25年度)
			トンネル快適走行率(%)	91.8(18年度)	→	95.1(25年度)
			()	()	→	()



事後評価

1. 事後評価の実施体制・実施時期

○ 実施時期

策定自体にて評価を実施

○ 事後評価の実施時期・公表方法

平成27年3月

栃木県県土整備部道路保全課ホームページにおいて公表

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

○ 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	実績値	目標年度	
観光入込み客数	千人	日光市・那須塩原市・那須町の合計観光入込み客数	観光の活性化を目指す指標として入込客数を設定	22,897	H18	24,042 24,649	H25
トンネル快適走行率	%	点検・清掃・工事により片側通行規制等されない割合	安全・安心・快適な道路を指す指標として設定	91.8	H18	95.1 97.4	H25

※ トンネル快適走行率・・・(1-規制日数÷365日)×100

○ 目標値と実績値に差が出た要因

- ・日光市・那須塩原市・那須町の合計観光入込客数については、平成18年度の目標値24,042千人に対し、平成25年度の実績値24,649千人と目標を達成しました。
- ・平成23年3月に発生した東北太平洋沖地震の影響により大きく落ち込んだが、平成24年度以降は、当初計画を上回る伸び率となっている。

- ・拠点施設へのアクセス道路及び拠点間の連絡道路の安全・安心で快適な走行空間を確保したことにより、観光活性化を図れたことが要因であると思われる。
- ・トンネルにおける片側通行規制等されない割合については、平成18年度の91.8%に対し、平成25年度の結果97.4%と目標を達成しました。

- ・計画的かつ集中的にトンネル補修を行ったことで、通行規制期間が短縮し、トンネル快適走行率が上がったと思われる。
- ・トンネルの安全性や信頼性を高めるとともに、路面補修も行ったことで、快適な観光アクセスを確保したことも要因と思われる。

○ 特記事項(今後の方針等)

- ・今後も、道路施設を定期的に点検・管理を行い、安全・安心で快適な観光アクセスを維持していくことで、本地域の活性化を図っていく。

